# 三世紀の日本の姿・出現の姿

## 卑弥呼と交流があった？「四隅」を造った王たち

中国の史書『魏志』倭人伝には、四隅突出型墳丘墓（以下「四隅」と略す）が盛んに造られる弥生時代終りごろの日本が書かれています。そこには日本がいくつかの国に分かれ、その中心的な存在として「邪馬台国」というクニがあったことが書かれています。

邪馬台国がどこにあったかをめぐっては、『魏志』倭人伝に記された状況をもとに、江戸時代以来、多くの議論がなされてきました。現在、九州北部説と畿内（現在の近畿地方）説を中心として、全国各地に邪馬台国の候補地がありますが、いまだ正確な場所はわかっていません。

最近、各地で『魏志』倭人伝に書かれた卑弥呼の居館や物見櫓などと関係がありそうな建物や集落跡や、卑弥呼が魏の皇帝からもらったと思われる鏡が見つかっており、邪馬台国についての議論が深まってきています。

このナゾのクニ・邪馬台国が日本で栄えた時代は、「四隅」をシンボルにするクニが、出雲を中心に山陰地方で繁栄した時代でもあります。「四隅」に葬られた王も、邪馬台国の女王・卑弥呼と交流があったことも考えられます。ひょっとしたら、「四隅」のナゾがわかれば、邪馬台国のナゾを解くヒントになるかもしれません。

**鏡と金印**
（鏡・八日山1号墳出土：松江市新庄町、金印・志賀島出土：福岡市）
ともに中国から渡ってきたもので、中国王朝との交流が盛んであったことがわかる。

所蔵・写真提供：福岡市博物館

写真提供：佐賀県教育委員会

**「卑弥呼が生きた時代」のムラ**
（吉野ケ里遺跡：佐賀県神埼町・三田川町・東脊振村）
現在は史跡公園になっており、「邪馬台国が栄えた時代」のムラの様子がよくわかる。

原本：大阪府立中之島図書館蔵

**『魏志』倭人伝**
『三国志』の中の『魏志』東夷伝倭人の条、いわゆる『魏志』倭人伝には、当時の日本の地理や習俗、中国との関係が細かく記されている。

**邪馬台国ブーム**
邪馬台国に関する議論は盛り上がり、所在地をめぐる説や出版される書籍も膨大な数になっている。



# 四隅突出型墳丘墓をめぐるナゾ

弥生時代後期の山陰地方を探るカギである
四隅突出型墳丘墓には、
わからないことがまだまだたくさんあります。
ここでは、まだ解明されていない三つのナゾについて、
いま考えられている説をいくつか紹介しましょう。

## 「四隅」のルーツはどこか？

◎現在、中国山地内の盆地で、もっとも古い時期（弥生中期）の「四隅」が見つかっていることから、中国山地で発生した。
◎日本国内ではなく、朝鮮半島北部の高句麗に起源を持つ積石塚（石を積んで山のようにした墓）をルーツとする。
◎山口県から丹後地方まで日本海側に点々と存在する、方形貼石墓から発展した。

## なぜ四つの隅が大きく突出しているのか？

◎初期の「四隅」の突出部に、頂上に登るための石敷きがあることから、人間が出入りする通路であった。
◎突出部の周囲を列石が何重にもめぐっていることから、神社の玉垣のように神聖な墓域を示し、葬られた人を保護するための施設と見立てる。この説では、突出部は人が通る場所ではなく、葬られた人の霊魂が通る通路と考える。
◎当初は通路として使われていた突出部がしだいに本来の目的を失い、山陰地域の首長の同盟のシンボルとして形式化していった。

## なぜ山陰だけでなく、日本海側の広い範囲に造られたのか？

◎山陰の首長が地域の安定をはかるために、北陸の一部の首長と同盟関係を結び、その象徴として造られたため。
◎山陰の文化が日本海を通じて伝播し、北陸でも造られるようになったため。
◎山陰から北陸に移住した人びとがいて、故郷と同じような形の墓を造ったため。

## 岡山とはどんな関係にあったのか？

◎出雲地方の有力な墳墓には岡山から運ばれた墓専用の土器が出土することから、出雲と岡山の首長は同盟関係にあった。
◎同盟関係にはあるが岡山の勢力のほうが有力で、出雲地方に侵入してきていた。
◎出雲を中心とする山陰勢力の南下を恐れた岡山地域が、領域の安全を確保するために出雲と同盟を結んだ。

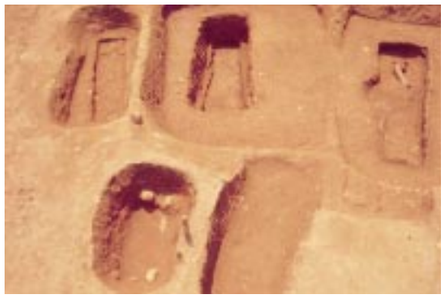
**日本海沿岸で見つかった貼石のある墳墓**
（波来浜遺跡A区2号墓：江津市波来浜）
日本海に近い砂丘の下から10数基の墳墓群が見つかった。ここでは弥生時代の中ごろからすでに、貼石を持つ墳墓が出現している。これらの墳墓は、江の川上流の三次盆地にある四隅突出型墳丘墓の出現と関連があると考えられている。

写真提供・保管：（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

**貼石のある丹後の墓**
（志高遺跡：京都府舞鶴市）
弥生時代中期の方形貼石墓だが、斜面にていねいに石を貼りつけていることから、四隅突出型墳丘墓との関連が考えられる。

写真提供：丹後町古代の里資料館

**但馬・丹後の主流・方形台状墓**
（大山墳墓群：京都府丹後町）
但馬や丹後では四隅突出型墳丘墓が発見されておらず、方形台状墓が主流。墓に関するかぎり、出雲との関係は薄い。



**大きな権力者の墓、四隅突出型墳丘墓**
（仲仙寺10号墓：安来市西赤江町）
弥生時代後期末のもので、頂上に11基ある埋葬施設のうち、1つだけがとくに大きく深くていねいに造られており、大きな権力を持った人が現れたことを示している。